

<News Clip 2022年9月16日>

WORLD
ENERGY
COUNCIL

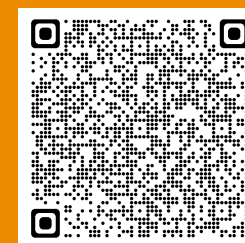
スプリントかマラソンか？
危機が変革のペースに与える影響

SPRINT OR MARATHON?
HOW CRISES ARE IMPACTING THE PACE OF TRANSITIONS

WORLD ENERGY PULSE 2 | AUGUST 2022

掲載サイト(WEC HP)

<https://www.worldenergy.org/news-views/entry/press-release-optimism-about-pace-of-energy-transitions-declining-reveals-august-world-energy-pulse>



エネルギー変革の中心に社会を据える。 世界のエネルギー界からの経験と展望

World Energy Pulseの調査結果（2回目）によると、変革のペースに関するリーダーの楽観的な見方は急速に減少している。現在の各国のエネルギー戦略検討の結果、4月の調査結果（1回目）よりも、変革のペースが遅くなると答えたリーダーが27%増えました（35%に対し44%）。

同時に、新たな危機が世界中のエネルギーシステムと消費者に連鎖的に影響を及ぼすため、より大きな分断が起こると見ているリーダーも18%増えています（36%に対し43%）。

「今回のWorld Energy Pulseは、エネルギー転換の中心に社会を据えることの重要性を強調しています。ウクライナ戦争とそれに伴うエネルギー供給と生活費の危機は、需要への対応なしに供給側の解決策に取り組むことの難しさを痛感させるものでした。そうすれば、絶好の機会を逃すだけでなく、社会不安という現実的なリスクも生じます。エネルギー転換を成功させるには、『世界エネルギー・トリレンマ』の三つの柱すべてに関わるだけでなく、エネルギー消費者のニーズに対応した解決策を取り入れる必要があります。」

（アンジェラ・ウィルキンソン博士、WEC事務局長兼CEO）

Findings are based on responses to the World Energy Pulse received in July 2022.

Should you wish to access to more detailed data and insights, please contact us at partners@worldenergy.org

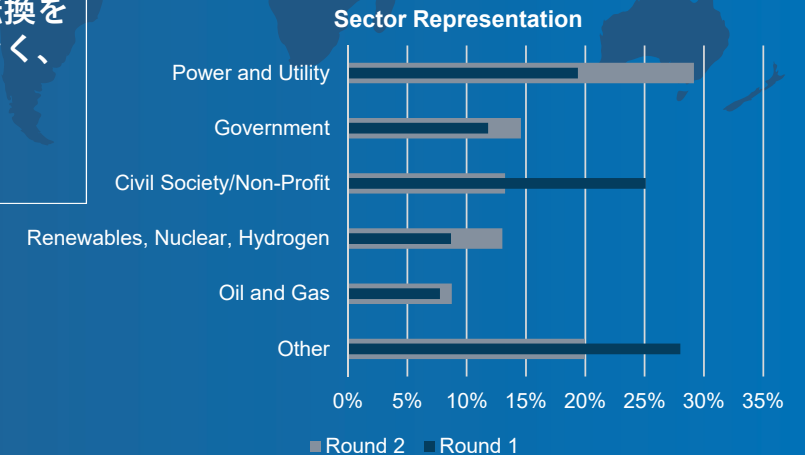
2回目 : 583 名 (1回目 700名)

6大陸 79カ国より回答

583 RESPONDENTS

ACROSS 6 REGIONS AND

79 COUNTRIES



EXECUTIVE SUMMARY | エネルギー変革のペース

1. 混乱の中での変革

2020年代、さらなる危機が訪れると予想される。エネルギー安全保障と気候変動問題への取り組みは、水、食料、産業競争力、雇用など、他の不安要素にも光を当てている。**エネルギー転換のペースについて、リーダーたちの楽観的な見方は急速に低下**しており、4月に行われた第1回2022年Pulseの時点に比べ、プロセスが遅くなると回答したリーダーが27%増えた（35%から44%へ）。気候変動は、欧州を除くほとんどの地域で主要な懸念事項として報告されていますが、複合的な危機により、**手頃な価格と多角的な安全保障を並行して管理することに関心が向けられている**。また、価格やシステムコスト、アクセス、アフォーダビリティを結びつける、より質の高いリーダーシップの対話の必要性が、調査の回答から指摘されている。

2. エネルギー安全保障をベースとした現実的な気候変動対策とアクションの再構築

エネルギー政策決定において、よりバランスのとれた「世界エネルギートリレンマ」アプローチへの回帰が、世界的にリーダーシップの選択する方向として現れている。**エネルギー安全保障は世界的に最も優先度の高い課題**であり、次いで環境の持続可能性、そして最後にエネルギーの価格と公平性が挙げられ、エネルギー転換のための国際協力と食料・エネルギー・水の連鎖は、現在の危機の中で最も高いリスクとして認識されている。

3. 公正、公平、包括的なエネルギー変革の必要性の高まり

電力貯蔵、低炭素水素、スマートグリッド、炭素回収・貯留などの**供給側の技術**は、全ての地域においてクリーン且つ公正なエネルギー転換を加速させるために重要であると考えられている。危機に対する政府主導のトップダウン的な対応は全地域で顕著であるが、**同時にボトムアップや消費者主導**のリーダーシップモデルの不在も指摘されている。

4. リーダーへの期待

回答者のほぼ40%が、**エネルギーリテラシーの向上**を目指す最重要な対象は政策立案者と考えている。この数字は北米とアフリカで最も高く（それぞれ52%と50%）、中南米とカリブ海諸国（28%）では市民がエネルギーリテラシーの優先対象と見なされている状況と対照的である。

5. 政府による新たな介入 - 漸進主義の終焉？

政府の介入は、エネルギービジネスと産業運営を支援するために、エネルギーインフラ、研究開発、規制、法人税の分野において最も重要であると認識されている。また、**初の需要主導型の世界的なエネルギーショックによって引き起こされた生活費の危機**に対して、**安価で迅速な解決策はなく、補助金や市場構造・設計の見直しとともに、エネルギー効率化のインセンティブと資金が必要であることを結果は示唆している**。

6. 需要主導型のエネルギー安全保障の新たな推進力は、エネルギー地政学をどのように再構築するのか、あるいはその逆はどうなるのか？

ほとんどの地域において、エネルギーと気候の安全保障に関する新たな課題に対処するため、**電力網の強化・拡張、発電構成の多様化**が最も高い選択肢として挙げられています。北米では、リーダーシップの観点として、グローバルなエネルギーショックに対するレジリエンスを強化することが優先課題として挙げられています。欧州では、発電構成の多様化とエネルギー輸入が望ましい解決策と考えられている。

次ページ以降、太枠内について抜粋・紹介

1. TRANSITIONS IN TURMOIL 混乱の中における変革

1.1 Slow return to stability

1.1 安定への回帰の遅れ

1.2 Compounding crises

1.2 複合的な危機

1.3 Outlook for fragmentation

1.3 フラグメンテーションの展望

1.4 Multiple paces of transition

1.4 複数の移行ペース

1.1 | エネルギーシステムを揺るがす複数の「一生に一度」の危機、安定を取り戻すまでに時間を要す



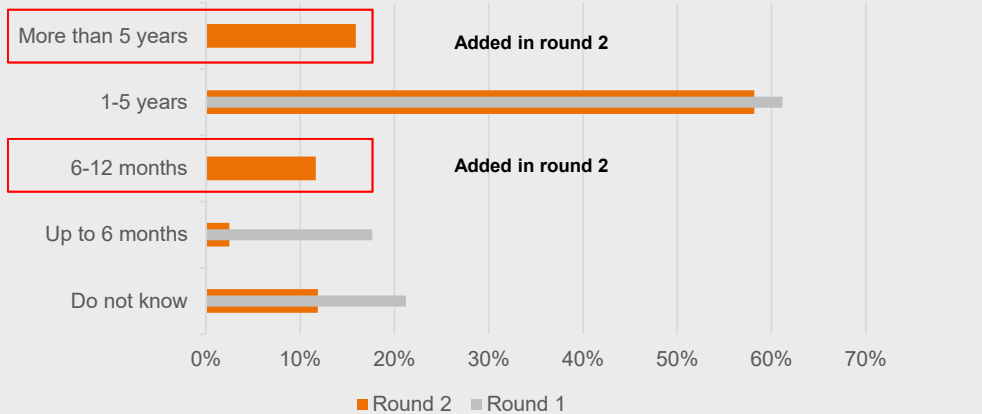
グローバル平均で、「安定した状態に戻るまで1~5年かかる」が58%、「5年以上かかる」が16%と過半数を占め、早期回復は望めないとされた。



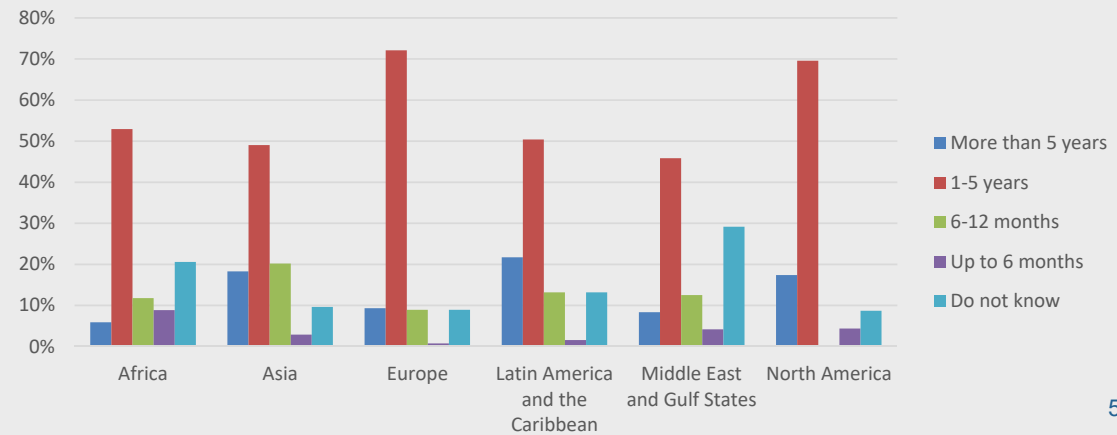
2020年代、今後の10年には、さらなる危機が訪れると予想される。エネルギー安全保障と気候変動問題への取り組みは、水、食料、産業競争力、雇用など、他の不安要素にも光を当てている。

Based on national responses to dealing with these crises, how long before return to stability?

Global view



Regional view



1.2 | 新たな複合危機、連鎖する混乱が世界の全地域に影響を及ぼす



欧州では、「欧州のエネルギー安全保障の危機」が55%の回答者の最大の関心事となり、次いで「気候変動」が18%であった。その他の地域でも、「気候変動」がエネルギーリーダーの主要な関心事となっている。



アフリカでは、気候変動(21%)、食糧・エネルギー・水の危機(21%)、生活コスト(18%)などが、エネルギーリーダーの最大の関心事として同様に報告されている。

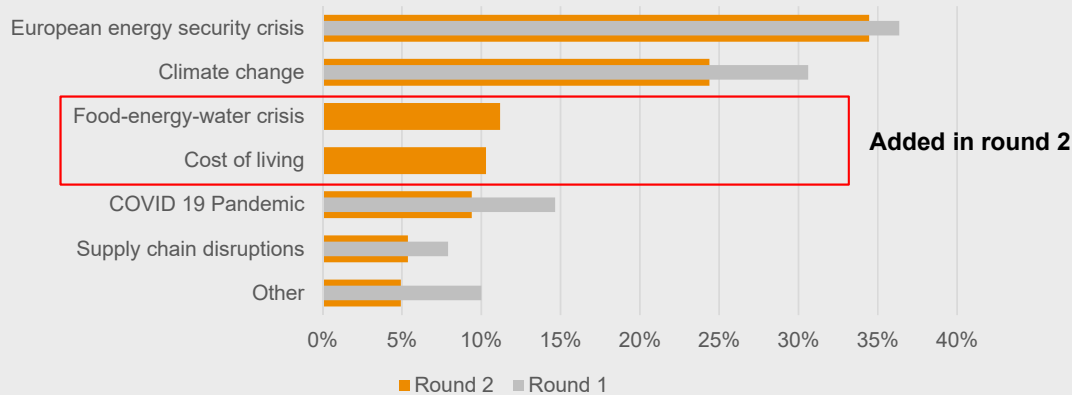


アジアでは、気候変動(25%)と欧州のエネルギー安全保障危機(24%)が主要な懸念事項のトップとして並んで注目されている。

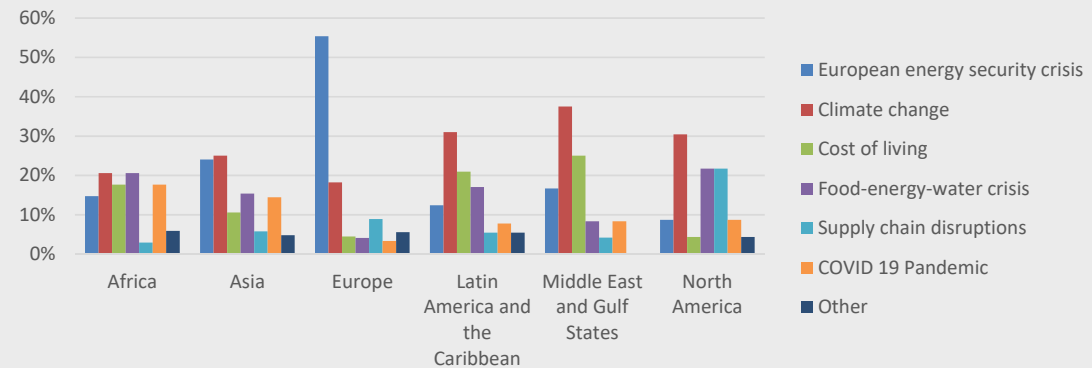
気候変動はほとんどの地域(ヨーロッパを除く)で主要な懸念事項となっているが、複合的な危機によって、手頃な価格と多次元の安全保障を並行して管理することに関心が向けられている。

Which of the following crises are you/your leadership paying MOST attention to?

Global view*



Regional view



*Global view influenced by weight of Europe in responses

1.3 | より分断が進み細分化され、制約の多い展望



グローバル化の衰退と地域・ローカルな安全保障の優先事項の台頭が続く。2022年4月から7月にかけて、国際協力の展望はますます細分化された世界へとシフトしており、回答者の43%がより分断・細分化され制約の多い展望を予想しています(4月より18%増)。



国際協力の見通しとして、グローバル化の継続を予想する回答者は4分の1以下(19%)である一方、二極化(30%)またはより細分化された世界(43%)を予想する回答者がより多くなっている。



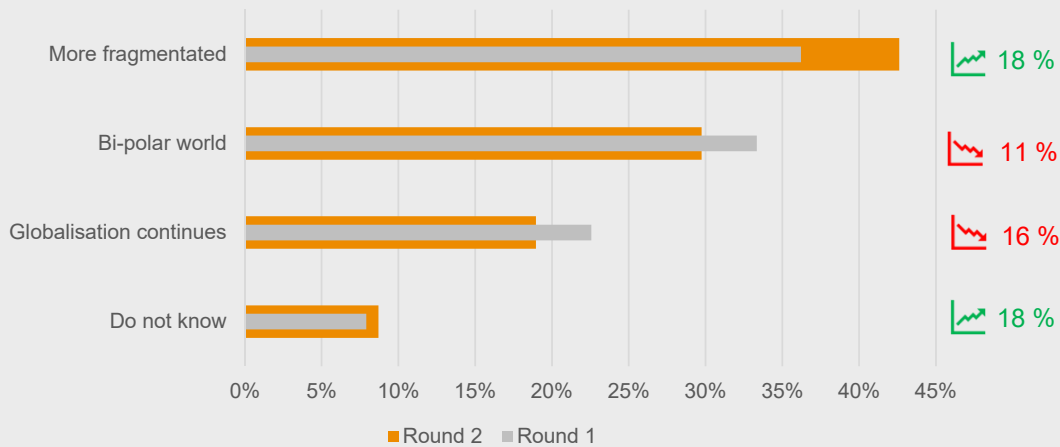
国際協力に関する不確実性は、2022年4月から7月にかけてわずかに増加し、9%が今後の国際協力に何を期待したらよいかわからないと回答している。



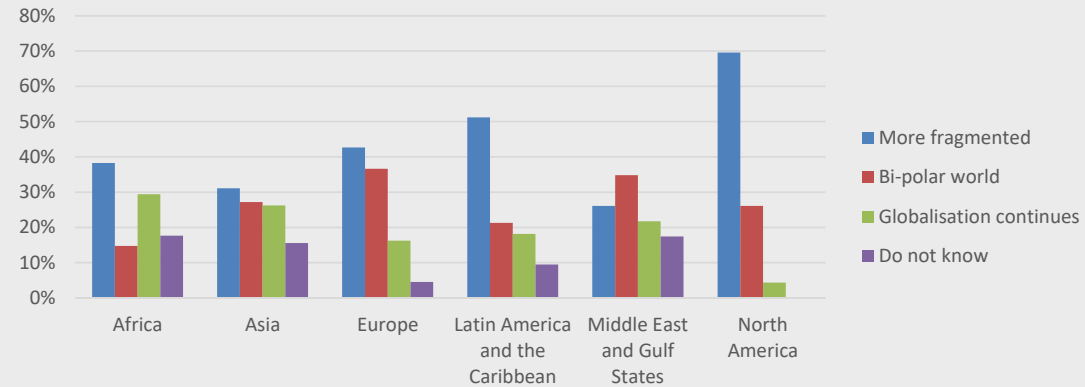
ほとんどの地域、特にアメリカ大陸で分断化が進むと予想される。MEGSは唯一、二極化する世界秩序への期待感を示している。

How do you see the outlook for international cooperation?

Global view



Regional view



1.4 | リーダーたちは、急速に発展している現在の国家エネルギー戦略の下での移行のペースをあまり楽観視していない



世界的に見ると、移行は「加速される」、あるいは「減速される」という点で回答者の意見は分かれています。世界の回答者の44%以上が、複数の危機への対応の結果、エネルギー転換が遅くなると予想しているのに対し、42%はその逆、つまりエネルギー転換のペースが上がると予想している。



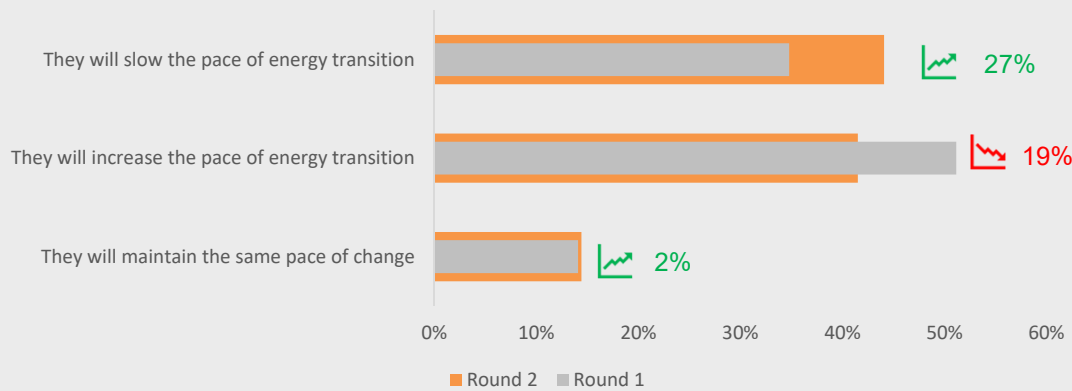
地域別に見ると、アジアと米州では、エネルギー変革のペースは遅くなるとの見方がやや優勢である。逆に、ヨーロッパと中東湾岸諸国では、より速いペースを期待しているものがやや多めとなっている。アフリカでは、明確に多数派(59%)が減速を予想しています。



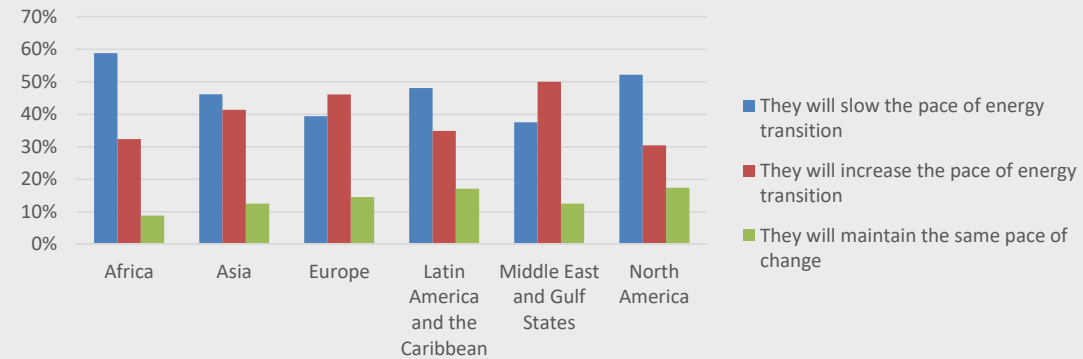
この結果は、クリーンで公正なエネルギーの移行が危機に瀕しており、価格やシステムコスト、アクセスやアフォーダビリティを結びつける、より質の高いリーダーシップ対話が緊急に必要であることを示唆している。

Which statement best reflects your opinion on the impact of national responses to dealing with these crises?

Global view



Regional view



2. Energy security is reframing affordable climate security actions

「エネルギー安全保障」の追求は、現実的で手の届く「気候変動対策・アクション」の再構築を促している

2.1 Energy Trilemma challenges

2.1 エネルギーのトリレンマの課題への挑戦

2.2 International collaboration at risk

2.2 危機に瀕した国際協調

2.1 | エネルギーのトリレンマ経営課題はどこにでもあるものの、政策メニューは地域によって異なる



世界エネルギートリレンマは、信頼性が高く、安価で、クリーンなエネルギーを確保するための各国のパフォーマンスを測定し、追跡している。その結果、優先順位は場所によって異なるものの、あらゆる場所でトリレンマが復活していることがわかった。



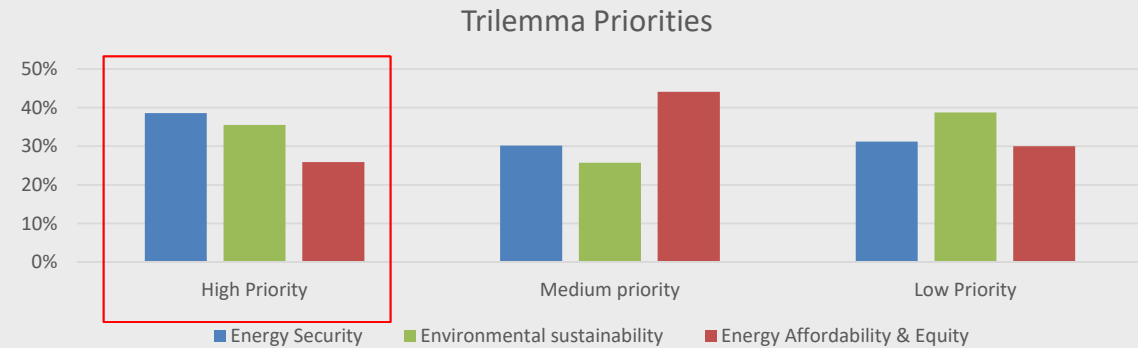
世界的に見ると、エネルギー安全保障が最も優先度が高く、次いで環境の持続可能性、そして最後にエネルギーの価格と公平性が挙げられている。



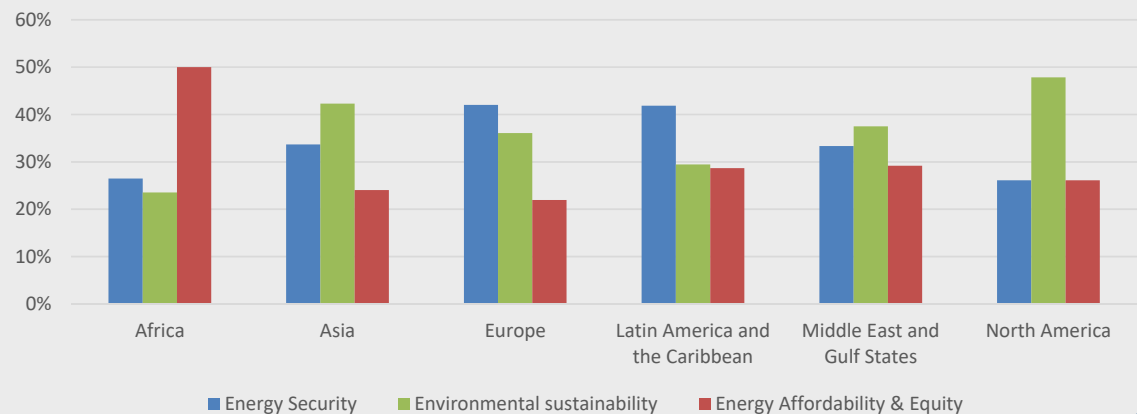
地域別では、ヨーロッパとラテンアメリカではエネルギー安全保障が、アジア、MEGS、北米では環境持続可能性が、アフリカではエネルギー価格と公平性が最も高いというように、優先順位が異なる。

Please rank the following issues from lowest to highest according to priority for you/your organisation's leadership in the next 3-6 months

Global view



Regional view of high priorities



2.2 | 国際的な連携は不可欠だが、より大きなリスクを伴う



世界的に、エネルギー変革のための国際協力と食料・エネルギー・水の連鎖の確保は、現在の危機の中で最も高いリスクとして認識されている(それぞれ34%と31%)。



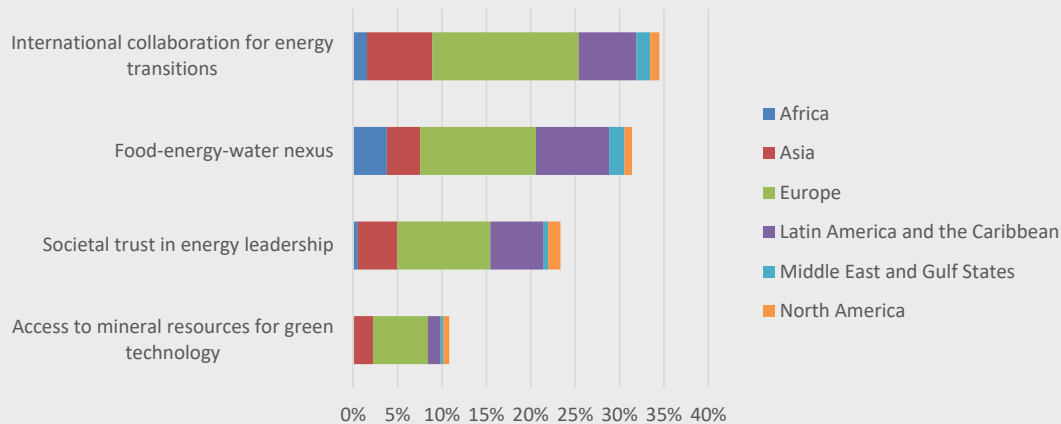
地域別では、アフリカの回答者の大半(65%)が、水と食糧の安全保障に対する懸念が高まっていると認識している。同様に、ラテンアメリカとMEGSの回答者も同じリスク認識をもっており、エネルギー変革に関する国際的な協力関係についてエネルギーリーダー達は昼夜を問わずに注目を続けている。



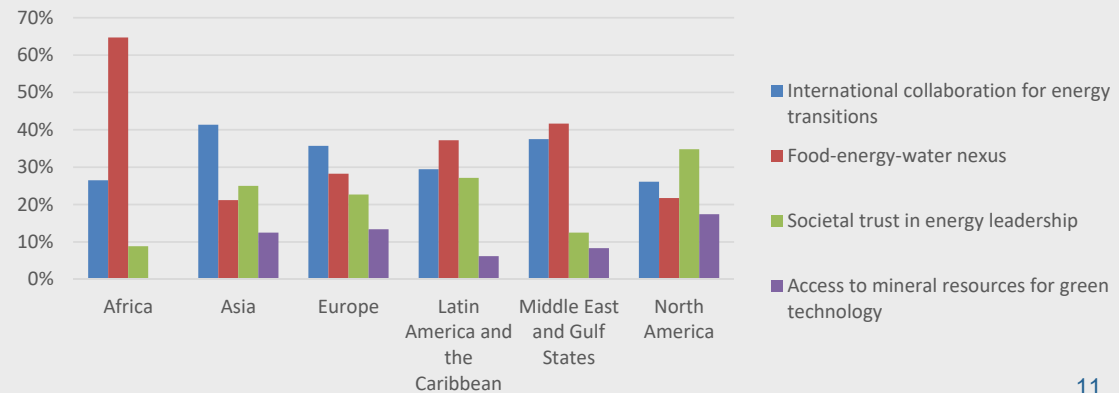
材料不足、鉱物資源の枯渇/依存については、(まだ)大きな懸念事項として挙げられていない。

Q9: In your view, which of the following is most at risk in the current crises?

Global view



Regional view



6. How will the new drivers of demand-driven energy security reshape energy geo-politics or vice-versa?

需要主導型のエネルギー安全保障の新たな推進力は、エネルギー地政学をどのように再構築するのか、あるいはその逆の流れとなるのか？

6.1 Priority focus areas

6.1 優先的に取り組むべき分野

6.1 | 電力網と電源構成Mixへの対処が優先的すべき重点分野と見なされている

ほとんどの地域で、エネルギーと気候の安全保障に関する新たな課題に対処するために、電力網の強化・拡張と発電構成の多様化が、回答者の優先事項として挙げられている。

北米では、グローバルなエネルギーショックに対するレジリエンスの強化が最優先課題となっている。

欧州では、発電ミックスの多様化、エネルギー輸入の多様化がリーダーシップとして求められている。

